

平成17年9月6日大水害

あれから10年

>15<

教訓は生かせるか：

パネルディスカッション

「災害の教訓を生かす」

自助・共助・公助

コーディネーター

杉尾哲 (宮崎大学名誉教授)

パネリスト

首藤正治 (延岡市長)

図師雄一 (宮崎県土木整備部長)

大塚法晴 (元延岡河川国道事務所長)

森川幹夫 (九州地方整備局河川部長)

猪狩信浩 (NPO法人宮崎県防災士ネットワーク理事長)

福島宏一 (元延岡市消防団長)

亀長馨 (元北方町川水流区長)



杉尾哲氏



首藤正治市長

【杉尾】まず初めに、台風14号当時の状況について振り返ってみることにします。

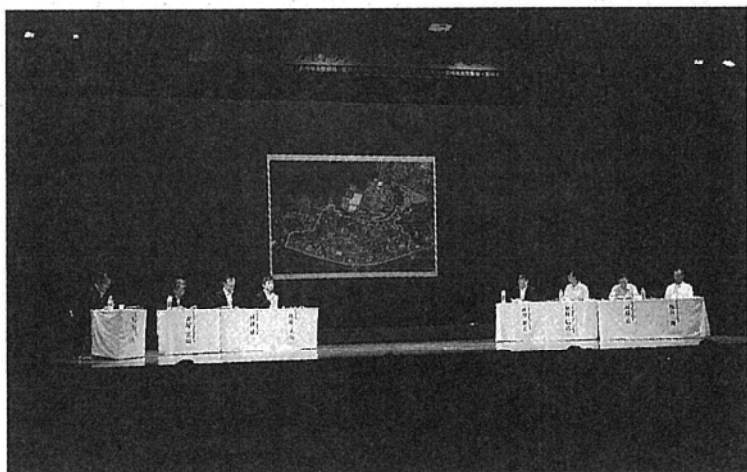
【首藤】人的被害は死者1人、負傷者3人、家の被害は全壊家屋が

111棟、半壊家屋が743棟ということでした。住家浸水は、床上浸水が510棟、床上下浸水が818棟ということ、数字だけを申し上げると、その悲惨さというものはなかなか伝わりにくい、イメージしにくいんです。

は、延岡で約56億円という数字も出ております。でも、こういう数字以外にいろんな状況がありました。私たちの地域にとって、その後も非常に大きな影響をもたらしたということでは、高千穂鉄道が当時はまだ運行されておりましたが、この出水によって鉄橋が二つ流失してしまいました。

実はこれが、当時経営が非常に厳しかった高千穂鉄道にとどめを刺したといえますか、そういった状況になってしまいました。第三セクターとして運営・運行していた高千穂鉄道、もし今、これがあつたらどうだったかなと思つてですね。

東九州道が開通して、延岡から高千穂まで道を使って高千穂まで



平成17年9月の台風14号被害の体験や対策について意見を交わすパネリストら(のべおかの防災・減災を考えるシンポジウムより)

うことが、最期の最期、われわれとしては非常に悔いの残ることもあったんですね。

あと、北方町役場も1階部分が全部浸水してしまっていて、役場の機能もストップしたということもありました。この浸水のころ、17年はまだ市長就任前でした。

このときに被災現場にボランティアセンターができて随分たくさんの方が駆け付けましたので、私も現場に入つて少しお手伝いしたんですけど、さっき申し上げたような、数字で表せない悲惨な状況というのが被災現場にはあるんですね。

そういったことを、ぜひ皆さん方にはイメージを新たにしていたらいいと思っております。

台風14号 延岡の被害総額約56億円 2鉄橋流失、TRにとどめ

防災・減災を考える
シンポジウムから――